

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4590100279
法人名	医療法人 宮永内科クリニック
事業所名	グループホーム自由ヶ丘
所在地	宮崎県吉村町井出ノ中甲793-1 (電話) 0985-61-8327
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 2 月 5 日

## 【情報提供票より】(22年 1月27日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.1人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り平屋建		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( )円	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 昼食に含む 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(1月27日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8 歳	最低 71 歳	最高 98 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮永内科クリニック、古賀総合病院、宮崎北歯科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅地と隣接し田園が広がる場所に位置しており、近くには消防署や小中学校があり、とても静かな環境でゆっくりとした雰囲気のあるホームである。建物自体はデイサービスを併設し、職員の行き来もみられている。事業所名ともなった「お一人お一人の自由」を尊重し、その人に合った否定しないケアの支援に取り組んでいる。また、職員同士が親しく協力し合い、特に医療面での対応は、些細なことでも対応でき、利用者が安心して暮らせるホームである。</p>
---

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価後、利用者一人ひとりの個別の連絡ノートを作成し、利用者の状態等細かく記載され、内容に対して家族からの意見も同じノートに記載されるなど、家族等への連絡が密になっていた。また家族会も開催し、少しでも意見が出て気安い取り組みを行っていた。介護計画も3か月に1回の見直しにきちんと対応され、昨年の外部評価を活かそうとする姿勢が強くみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が外部評価・自己評価について説明をし管理者及び介護リーダーを中心に仮作成したものをスタッフ会議で全職員で検討し、完成をさせている。自己評価作成時に改善点が出たものについても検討し、前向きな姿勢で改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長、地区の民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、ホームの職員が参加し3か月に1回、定期で行っている。意見も活発に出ており、ホームでの催しや日々の活動に活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置もあり、遠方の家族には電話で聞き取るなど取り組みを行っているが、特筆すべきは利用者一人ひとりの個別の連絡ノートを作成し、家族の来訪時に目を通していただき、希望や要望を記入してもらうなど、意見の吸い上げの努力がみられた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、地区の介護事業所として認知されており、催しの時の自治会の協力や近所のボランティアの方の定期訪問、近隣の小中学生の体験学習やクラブ活動の場を提供するなど、日常的に良い連携の構築がなされている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、生き生き、のびのびと暮らそう」を理念の大きな方針として定め、スタッフ会議で年度計画を立てる時に、理念を見直し地域密着型としての利用者・ホームとの関係も明確にされたホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議時に理念に沿った介護計画の作成・検討と、随時に管理者がスタッフへの指示や指導を行っており、理念を大事に実践していくという取組みにつながっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、地区の介護事業所として認知されており、催しの時の自治会の協力や近所のボランティアの方の定期訪問、地区の行事への積極的な参加、また近隣の小中学生の体験学習やクラブ活動の場を提供するなど、日常的に良い連携の構築がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より職員へ外部評価の説明がなされており、職員から「質の向上」につなげたいという意見が出された。昨年の評価での指摘項目は改善をされており、外部評価を活かそうとする真摯な取組みがみられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、地区の民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、ホームの職員が参加し3か月に1回、定期で行っている。意見も活発に出ており、ホームでの催し(納涼祭)や日々の活動に活かされている。		運営推進会議は内容も充実しており、このままの良い活動を維持してほしい。ただ関係各所の調整の困難さもあると思われるが2か月に1回の開催に期待をしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会は市の協力を得て地区が決まり加入となるなど、市との密な連携を行っている。また不明な点は随時、市へ直接尋ねるなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは来訪時に口頭での報告は勿論の事、利用者一人ひとりの個別の連絡ノートを作成し、日々の暮らしぶりなどを記載、家族へより丁寧に報告を行い、遠方の家族には行事等の写真に手紙を添えてお送りしたり、電話で近況の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の連絡ノートに意見や要望、希望など記入してもらい、ケアの質の向上に努めている。また家族会を設置し、意見の出やすい環境を作るなどの取組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに退職は無く、職員が併設のデイサービスに異動になったことがあるが、併設のデイサービスであり毎朝、ホームの利用者と顔を合わせ挨拶するなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の年間計画を作成し、積極的に全職員が研修等に参加をされていた。外部研修は参加した職員がスタッフ会議の中で復命講習を行い、全職員で共有できるように取り組まれている。		積極的に研修に参加されているが、研修報告書の回覧も行い、職員の確認のサイン等があると、研修内容の共有・実践が更に図られると思いますので、今後の取組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加、研修等に職員も含め出席している。不明な点は他のホームへ尋ねたりと、良好な関係が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	直近の利用者は、始めは家族と共に昼食の利用から行い、次に日中のみの利用に広げ、その後、入居となった。無理をすることなく馴染みながらのサービス利用を重視し取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌や、食事・おやつなど調理の方法を覚えてもらうことがある。また「がんばれ」と利用者から声をかけてもらい大変、心の励みになったと言われた職員の言葉が印象的であり、共に支えあっている関係がみられた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでセンター方式のシートを一部利用し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また利用者の行動、言葉も把握するための重要な要素と捉え取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当スタッフと管理者(計画作成者)、介護リーダーが家族の意向を聞きながら介護計画の原案を作り、職員全員で検討、作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時及び定期(3か月に1回)で見直しを行っている。また月1回のスタッフ会議では利用者それぞれについてミニカンファレンスを行い、利用者の細かい変化の状態把握にも努めている。		モニタリングは現在3か月に1回となっているため、ミニカンファレンスを活かしたモニタリングを月に1回は行えるよう、今後の取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊は家族の付き添いの下、自由に対応している。突発的な場合は、往診や通院時は職員が付き添い受診を行うなど柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関ということもあり医療連携がスムーズに行われている。かかりつけ医が母体以外の場合でも、文書によるやり取りを密にして適切な医療が受けられるように支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りなど契約書に記載されているが、具体的な説明はされていない。今後、体制も含め具体的なケアの方法について整備し家族へ説明、同意を得る意向である。	○	医療連携がスムーズに出来ているので、なるべく早くに重度化した場合や終末期のあり方について、具体的に家族に説明し、同意を得るような取組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけは非常に丁寧でゆっくりとしたやさしい雰囲気を感じられた。居間など個人を特定するものの掲示は無く、書類も事務所で保管され、プライバシー・個人情報保護を尊重した取組みがみられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの一日の流れに自由度を持たせ、起床時間や食事時間、食事の摂取場所なども利用者の状態により、臨機応変に対応するなど、出来る限り利用者一人ひとりのペースを壊さないような取組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物の手伝いから、配膳の準備、片付まで数人の利用者が一緒に行っていた。食事はすべての職員が利用者を介助したり、声かけしながら同じ物を一緒にゆっくりとしたペースで、楽しく食されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のペースに合わせて午前と午後での入浴を行っている。夕方や夜間など希望があれば、対応を検討する意向である。入浴拒否の利用者へは、声かけや入浴時間の変更、清拭や足浴で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎週ボランティアによる歌の指導が楽しみで、鼻歌を口ずさむ人もあり、ぬりえや、座布団カバーを縫う人、また、役割としてゴミ出しの手伝い、食事の準備・片付、洗濯物たたみや掃除など手伝ってもらうなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きつけの美容室へは家族にお願いし、利用者の買物の付き添いや利用者全員でドライブや近くの喫茶店に食事に行くなど外出の機会を作るように取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関ともに日中、鍵は掛けておらず、鍵を掛けたときの弊害を管理者・職員がきちんと理解され、実践をされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルをきちんと作成し、職員もその内容を良く理解していた。緊急通報装置やスプリンクラーも設置されており、年2回の防災訓練も実施している。消防署が歩いて1分程度の場所に有り、安心な環境であった。		次回の訓練では近所の方の参加も予定されているので、地域との連携を深めたより良い訓練になることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量、体重などきちんと記録、整理されていた。献立は職員の中に栄養士資格者がおり、意見を聞いて作成をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天井も高く開放感があり採光も充分で明るい雰囲気であった。また居間の中央に畳(こたつ)が有り、数人の方がこたつで暖を取る姿がとても良く、居心地のよい近所の家に来たような感じでもあった。飾りつけも必要最低限で決して幼稚ではなくインテリアの一部のようであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは介護用のベットであるが、箆箆や椅子、家族写真など、それぞれの利用者の使い慣れたものが置かれており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		